

INFORMATION *Circular*

THE JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

<http://www.bcasj.or.jp/jsdb>

HP記事随時更新中(サーキュラーより早い)!
求人記事・集会案内記事大募集中!!

■ 庶務連絡(報告)	1
■ 日本発生生物学会運営委員会議事録	2
■ 日本発生生物学会第33回高知大会最終案内	5
■ ひとくちメモ	7
■ 研究集会・シンポジウム案内	8
■ 教官公募・ポスドク募集の案内	15
■ 研究助成金・各種募集案内	17
■ 会員異動	31
■ 入会案内・広告掲載のお願い	37

NO.95

APRIL 2000

日本発生生物学会

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉

東北大学大学院理学研究科生物学

会 長：〒 606 京都市左京区北白川追分町
-8520 京都大学大学院生命科学研究科
竹市雅俊 (Tel: 075-753-4196)
(Fax: 075-753-4197)
(e-mail: takeich @ take. biophys. kyoto-u. ac. jp)

DGD 編集主幹：〒 153 東京都目黒区駒場 3-8-1
-8902 東京大学大学院総合文化研究科生命系
浅島 誠 (Tel: 03-5454-6632)
(Fax: 03-5454-4330)
(e-mail: asashi @ bio. c. u-tokyo. ac. jp)

事務局：〒 980 仙台市青葉区荒巻字青葉
-8578 東北大学大学院理学研究科生物学教室
Tel: 022-217-6699 Fax: 022-217-6699
e-mail: jsdb@jcasj.or.jp
(幹事長) 井出宏之 (Tel: 022-217-6691)
(庶務幹事) 田村宏治 (Tel: 022-217-3489)
(会計幹事) 出口竜作 (Tel: 022-214-3413)

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込 5-16-9
-8622 財団法人 学会事務センター
日本発生物学会担当係 (Tel: 03-5814-5810)
e-mail: jsdb @ bcasi. or. jp

日本発生物学会への入退会、住所・所属変更、会費納入、および出版物（インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については、上記の日本学会事務センターに書面または e-mail でお問い合わせ下さい。なお DGD につきましては直接、ブラックウェルサイエンス社にお願いいたします (Fax: +61-39349-3016)。

サーキュラーへの投稿募集

日本発生物学会サーキュラーは会員の皆様の情報誌として年 3 回発刊されます。学会に対する提言、研究雑感、実験手法、学会見聞記、関連学会案内、書評等どのような内容でも結構ですので、是非事務局にお寄せ下さい。

庶務連絡（報告）

会員名簿の作成と内容の若干の変更について

本年度は本学会の会長および運営委員の選挙がありますので会員名簿を新たに作成します。新しい会員名簿を選挙名簿とすることを目標に円滑な名簿作成を目指したく思っておりますので、皆様ご協力を。

松田先生、福田先生のご努力下、e-mail番号の掲載および英語表記と、名簿も益々よくなっております。今回はアルファベット検索ができるようにすることと、会員番号を表記することを盛り込みます。そのほかにもご要望がありましたらお寄せください。

さて、以下はお願いです。

- ・ お手元に届く名簿作成用往復はがきに、必要事項を記入の上、締切日までに必ず御返送ください。
- ・ 記入の際、e-mailアドレスと英語表記を忘れず、誤りの無いようにはっきりと記入してください。

面倒くさいことは確かですが、学会事務運営をする上で非常に重要な作業です。皆様のご協力をなにとぞよろしくお願いします。

メールアドレスの変更の場合

できるだけ近いうちに、e-mailを使った会員の皆様へのspeedyかつ円滑な御連絡・御案内ができるように努力しております。そのためには会員皆様の最新のメールアドレスが常時必要となります。

異動の場合だけでなく、単にメールアドレスが変わる場合でも、下記アドレスに変更後のメールアドレスをお知らせください。

jsdb@bcasj.or.jp

2000年度 日本発生物学会運営委員会 議事録

日 時：2000年1月29日（土曜日） 15:00～17:00

場 所：東京大学駒場キャンパス16号館第一会議室（129号室）

出席者：竹市 雅俊（会長）

相沢 慎一、井出 宏之、上野 直人、岡野 栄之、佐藤矩行、高橋 淑子、中辻 憲夫、仲村 春和、西田 宏記、藤澤 肇、星 元紀、八杉 貞雄（運営委員）

浅島 誠（DGD編集主幹、運営委員兼務）

川村 和夫（第33回大会準備委員長）

西駕 秀俊、福田 公子（前事務局）

出口 竜作、田村 宏治（新事務局）

会長挨拶のあと、八杉前幹事長から事務局交代についての説明があり、井出新幹事長、出口会計幹事、田村庶務幹事が紹介された。引き続き、報告、審議に入った。

報告事項

①事務局報告（八杉前幹事長）

会員数（2000年1月26日現在）

・国内	正会員	1071名
	学生会員	342名
	賛助会員	5名

・国外	正会員	49名
-----	-----	-----

会員総数	1467名
------	-------

（会員数は増える傾向にある。参考：1999年1月初めは、1364名）

②DGD編集委員会からの報告（浅島DGD編集主幹）

- ・ impact factorは徐々に伸びているが、投稿論文数が減る傾向にある。
- ・ DGDのon line化(電子化)を引き続き検討している。
- ・ 年間6号から9号へ増刊を図り、出版までの時間の短縮（accept後、3ヶ月を目標）など現代化に即した方向に進めていく。

- ・ reviewを毎号に載せることを目標。
- ・ 図4枚までのcolor chargeを無償にすることを検討課題とする。
- ・ 論文の質について(検討事項)

現在の採択率(現在約70%)を、60%程度にしたい。

Review topic (special issue)をつくる。

来年のISDB suppl.を加える。

論文審査の際に、できるだけよいものにimproveしていく。

- ・ これに対し、運営委員から次のような意見が出された。

別刷りの表裏表紙の白紙は必要ない。なくすべき。

Impact factor上昇のために、他の国内関連雑誌(genes to cellsなど)と相互引用をする努力を口コミなどでするとよい。

編集主幹・editorとreviewerの関係について、DGD委員会で検討してほしい。

→検討事項として、DGD委員会に申し送り。

③第33回日本発生生物学会大会準備委員会からの報告(川村大会準備委員長)

- ・ 進行状況をホームページおよびサーキュラーで随時公開中。受付のページも順調に作成中。
- ・ 会場、日時の決定。

2000年(平成12年)5月25日(木)～5月27日(土)

高知県民文化ホール(シンポジウム、総会、本部)および

高知会館(ポスター発表、懇親会)

- ・ シンポジウム6つの内容と統括者を決定。
- ・ ワークショップの開催(～2/29まで受付予定)。
- ・ 昨年に引き続きオンライン申し込みを積極的に取り入れるが、紙面による申し込みも併用する。
- ・ 発表要旨の公開時期を考慮する。
- ・ スライド・OHPの両方を可とする。コンピューターの使用も、希望があれば検討する。

④第34回日本発生生物学会・ISDB合同大会準備委員会からの報告(竹市準備委員長)

- ・ 日程と会場の説明

2001年7月8日から12日まで京都国際会議場にて

- ・ シンポジウムの準備をどんどん進めている。シンポジストはこれからも変わっていく可能性がある。
- ・ Printed circular(印刷した冊子)は作らないが、ポスターをつくってregistrationの方法を明確にする予定。
- ・ DevelopmentおよびDevelopmental Biologyに広告を掲載。
- ・ 申し込みはすべてホームページにて行う。
- ・ 国内の発生生物学会(会員)への正式な連絡は今年中には行う。

⑤学術会議報告(星委員)

- ・ 日本の研究環境の劣悪さと国の責任について議論があったことが報告された。
- ・ 科研費審査員の推薦について説明された。

審議事項

① 会計報告(西駕前会計幹事)

- ・ 1999年度決算案の報告。
- ・ 2000年度予算案の提案。

予算案は草案であり、新事務局で最終案を作成し決算案とともに5月の総会にかけることが承認された。

② 会計監査委員の選出

- ・ 会計監査員として、東北大学大学院医学研究科 若松 義雄 会員が提案され、承認された。

③ 選挙管理委員の選出

- ・ 選挙管理委員として、東北大学加齢医学研究所 松崎 文雄 会員(委員長)、東海林 互 会員、渡邊 裕二 会員が提案され、承認された。

④ 学術助成金等の学会推薦決定法について

- ・ このことについて、学会への応募総数が学会からの推薦枠を越えた場合について、その採択の方法が審議された。その結果、そのようなことが生じた場合、会長の推挙により運営委員の中から3人の審査員を(その都度)選り審査委員会を設置し、無記名・

点数制で審査を行い、その結果を会長が判断し候補者を選出する、こととした。

⑤ 学術会議委員、推薦人の選出

- ・ 学術会議委員の候補者およびその推薦人の選出について、他の学会との兼ね合いも考慮に入れることが必要という議論がなされ、他研連関連学会と連絡を取り合い学会長と新旧事務局を中心に決定することとした。

⑥ 細胞生物学会と合同年会を行う可能性について

- ・ このことについて細胞生物学会の広川会長から発生生物学会との協力関係の提案があり、発生生物学会の年会にあわせて細胞生物学会の年会を春に移す可能性が示唆されていることが伝えられ、議論された。その結果、2002年の年会を合同年会とする、あるいは時期を同時期として合同のシンポジウムを開催するなどの可能性を細胞生物学会事務局と検討することとした。

⑦ 2002年年会開催会場について

- ・ 審議事項⑥とあわせて、5月の年会ころまでに決定できるように進めることとした。

日本発生生物学会第33回高知大会最終のご案内

大会準備委員会：川村和夫

会員の皆様、こんにちは。日本発生生物学会第33回大会にたくさんの参加申し込みをいただきまして有り難うございました。うれしさに正比例するプレッシャー、といった心境です。このサーキュラーがお手元に届く頃には、本大会まで残すところ1カ月となっているでしょう。大会準備委員会より最終のご案内を差し上げます。

1. 会期 2000年5月25日～5月27日

第1日目は9時30分よりポスターが始まります。

第3日目は15時～16時にシンポジウムで終了予定です。

総会と懇親会は例年通り、第2日目を予定しております。

2. 会場 高知県民文化ホール シンポジウムと総会
高知会館 ポスターと懇親会
(二つの会場間の距離は徒歩5分程度です)

3. 受付 大会期間中、高知県民文化ホール前にて行います。第1日目は9時より受け付けます。

4. 関連集会・会合

ワークショップ 5月24日 午後 高知大学

(内容については大会掲示板をご参照ください。会場の地図や時間など、詳細は順次大会ホームページに掲載するとともに、予稿集にも印刷されます。)

DGD編集委員会 5月24日 15:00-17:00 高知会館 弥生の間

学会運営委員会 5月24日 17:00-19:00 高知会館 弥生の間

ISDB組織委員会 5月25日 9:30-12:50 高知会館 朱雀の間

5. 発表形式の決定通知

第33回大会のご講演はポスターもしくはシンポジウムとなっています。発表演者となっておられる会員の皆様には、4月中旬に発表形式をお知らせします。

シンポジウムでの発表が決定した演題については、発表形式の詳細を発表演者にお知らせします。シンポジウムによって、また演題によって、発表時間が異なっておりますのでご注意ください。発表の方法(スライド、OHP、液晶など)については、まずオーガナイザーとご相談ください。

このサーキュラーをお読みになっている時点で、上記の通知のどちらかあるいはどちらも受け取られていない場合は、恐れ入りますが下記の大会準備委員会までe-mailにてご照会ください。

e-mail: o-conf@bcasj.or.jp

〒565-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西内

日本発生生物学会第33回大会準備委員会

6. 予稿集の発送

5月の連休明けにはお手元に届くように準備を進めています。

7. 大会ホームページの更新

今回の更新は4月中旬の予定です。会期中の詳細な日程表や高知市内の地図、高知大学の見取り図（ワークショップの開催場所）などが掲載されます。次々回の更新は4月下旬か5月上旬で、すべての講演要旨がホームページ上で公開される予定です。

8. その他の最新情報

大会に関する新しい情報、情報の変更は大会掲示板に掲載します。不明の点は掲示板で照会していただいても結構です。

9. アンケートの実施

本大会の講演申込に当たって、会員の皆様にはホームページによる申込にご協力いただきまして、有り難うございました。また、ホームページで申し込もうとしたがうまくアクセスできなかった皆様には、まことに申し訳ありませんでした。今年の経験を次年度以降、特に来年の国際発生生物学会に生かすために、ホームページ委員会と大会準備委員会は「ホームページ投稿に関するアンケート」を実施することにしました。講演登録会員の皆様には、この「アンケート」にも是非ご協力いただけるよう、お願い申し上げます。

ひとくちメモ：「論文の共著者とは何なのか？」

奈良先端科学技術大学院大学・バイオサイエンス研究科 高橋 淑子

最近、やたらと共著者の多い論文が増えたような気がします。本当に大勢の研究者によってつくられたビッグプロジェクトならよいのですが、「果たしてこの程度の論文に10人や20人やらが必要だったのだろうか？」なんて首を傾げる内容の論文も目に付きます。生命科学の分野では、筆頭著者と最終著者の貢献がもっとも大きく、名前が中程になるほど貢献度は少ないと思われるのが普通です。では共著者の定義とはなんなのでしょう？

最近是一个の論文を仕上げるにも、以前に比べて実にはたきさんのことをこなさなければならなくなったのも事実です。でもだからといって、「作製された論文を読まないうちに、自分の名前が入った論文が投稿されてしまった」とか、「科研費をもらってきたというだけでラストオーサーになるのが当然と思っている」なんてことはあまり勧められないのではないのでしょうか？

先日Nature誌に、「論文における共著者の分担内容を明記することをencourageする」といった内容のカラムを目にしました（Nature vol399, p393,1999）。また昨年からは日本においても科研費の業績欄には、発表論文における「共著者何名中申請者は何番目か」ということを明記することが求められるようになりました。これらのことは、単に発表論文の「数」のみが評価の対象にはならないことを示すと同時に、共著者というものの責任と自覚を改めて求められていると理解されるのではないのでしょうか。

また、単にあるマテリアルをある人に供与したというだけで共著者になると、同じマテリアルを他の研究者に供与しても異なる結論が出た場合（そしてそこでも”安易に”共著になったとしたら）、「同一人物が異なる複数の結論を出した」と見なされ信用失墜です。

共著者をいかに考えるかについては、それぞれの研究者独自の哲学も反映されるころでしょうが、それにしても一旦共著者になったならば”最低限” やっていただきたいこととして「論文を精読し、corresponding authorに対して何らかのコメントをつける」ことを提言させていただきたいのです。逆にcorresponding authorはこれらのコメントを受ける義務をもつということになります。学会発表でも基本的には同じことだと思われます。

皆様は共著者の役割をどのようにお考えでしょうか？

Lab-chips & Microarrays Japan

Cambridge Healthtech Instituteが主催するLab-chips & Microarrays Japanが2000年5月8日～9日に、東京のKeio Plaza Inter-continentalで開かれます。

詳しくは下のホームページを参照してください。

<http://www.healthtech.com/conference/00mfj/index.htm>

第3回IMSUT国際シンポジウム 「幹細胞生物学の展開：組織形成と再生医学の基礎」

日 時：平成12年6月22日（木）～6月24日（土）

場 所：東京大学医科学研究所講堂（東京都港区）

プログラム：

- ・ はじめに/ 西川伸一（京都大）・無脊椎動物幹細胞/ 阿形清和（岡山大）, Lu B. (UCSF)
- ・ 臓器別幹細胞/ Lendahl U. (Karolinska Inst.), Vescovi A. (Natl. Neurol. Inst. C. Besta), Marshak DR (Osiris Therapeutics)
- ・ 幹細胞と細胞分化/ 浅島 誠（東京大）, 須田年生（熊本大）, Hailing Hsu (Amgen Inc.)
- ・ ES細胞のin vitro分化/ Smith A. (Edinburgh Univ.), 丹羽仁史（大阪大）, 横田 崇（東大医科研）, Keller G. (Mount Sinai Sch. Med.), Brustle O. (Bonn Univ.)
- ・ ヒトES細胞/ Pera M. (Monash Univ.), Lebkowski J. (Geron Corp.)
- ・ 始原生殖細胞/ McLaren A. (Wellcome/CRC Inst.), Donovan PJ (Thomas Jefferson Univ.), 松居靖久（大阪母子医療センター研）
- ・ 核移植/ Colman A. (PPL Therapeutics), 角田幸雄（近畿大）
- ・ エピジェネティックス/ Surani MA (Wellcome/CRC Inst.), Jaenisch R. (Whitehead Inst., MIT), 石川冬木（東京工業大学）
- ・ 生命倫理（パネルディスカッション）/ McLaren A. (Wellcome/CRC Inst.), Capron AM (USC), 浅野茂隆（東大医科研）, 島次郎（三菱化学生命研）, 位田隆一（京都大）

主 催：東京大学医科学研究所（所長・新井賢一）、後援：アムジェン株式会社

参加費：無料

連絡先：〒108-8639 東京都港区白金台4-6-1

東京大学医科学研究所ヒト疾患モデル研究センター 吉田進昭

TEL: 03-5449-5753 FAX: 03-5449-5455

E-mail: nobuaki@ims.u-tokyo.ac.jp

第3回日本組織工学会のお知らせ

第三回日本組織工学会

会長 広島大学理学部教授 吉里勝利

日時：平成12年 6月 30日（金）午前9時～

平成12年 7月 1日（土）午前9時～

場所：広島国際会議場（広島市中区中島町1-5）

プログラム：

【シンポジウム1】 幹細胞の生物学，

プラナリア再生から幹細胞システムを考える／渡辺憲二（姫路工業大学理学部），造血発生と血管新生の相互関係／須田年生（熊本大学医学部），膵 β 細胞の培養とその応用／大河原久子（東京女子医科大学・総合研究所），筋の再生と筋疾患／埜中征哉（国立精神・神経センター武蔵病院）

【シンポジウム2】 幹細胞の組織工学への応用，

造血幹細胞の体外増幅とその応用／堀田知光（東海大学医学部），遺伝子治療臨床研究～ADA欠損症の経験から～／崎山幸雄（北海道大学医学部），New Treatments of male infertility／Sofikitis Nikolaos（鳥取大学医学部），神経幹細胞の生物学的特徴とその治療への応用／内田耕一（慶応大学医学部）ヒト血管内皮細胞と繊維芽細胞へのテロメラゼ遺伝子導入／三井洋司（工業技術院・生命研究所）・熊崎努（広島大学・原爆放射能医学研究所）

【特別講演】

Rebuilding of the liver with cells／Sanjeev Gupta（Albert Einstein College of Medicine），Developmental and genetic control of keratinocyte stem cell potential／G.Paolo Dotto（Harvard

Medical School), Proteomics and the challenge of mammalian cells and tissues / Ian
Humphery-Smith (University of Utrecht)

【一般講演】

参加費 : 会員 5,000円 非会員 6,000円

演題要旨締切: 平成12年 3月 31日 (金)

参加申込/演題要旨送付先/問合わせ先:

第3回日本組織工学会事務局

〒739-8526 東広島市鏡山1丁目3-1

広島大学理学部生物科学科

担当者 小原政信・立野知世・寺田涼子

TEL: 0824-24-7442 FAX: 0824-24-1492

※この件に関しましてはお問い合わせは

広島県組織再生プロジェクト

事務局 沼田までお願いいたします。

9th International Congress on Invertebrate Reproduction and Developmentのお知らせ

9th International Congress on Invertebrate Reproduction and Developmentが2001年7月15-20日
に、南アフリカ Grahamstown、Rhodes 大学で開かれます。

[問合先]

Professor Alan Hodgson

Department of Zoology & Entomology,

Rhodes University,

Grahamstown 6140,

South Africa

E-mail: A.Hodgson@ru.ac.za

Fax: +46-622 4377

First announcement, preliminary programme and online pre-registration available at:

<http://www.rhodes.ac.za/conferences/icird2001>

Santa Cruz Conference on Developmental Biology 2000

July 22-26,2000

Organizers: Cori Bargmann (UC San Francisco)

Richard Harland (UC Berkeley)

The Santa Cruz Conference on Developmental Biology is a highly interactive small meeting presenting the latest research in a beautiful and intimate setting at the University of California, Santa Cruz.

Up to 200 participants can attend the conference, which emphasizes molecular advances in development and pattern formation. Applications are invited by Web (<http://mcb.berkeley.edu/groups/devbio/SantaCruzDevelopmentalBiology>) or by mailing application forms to Eva Chazo, Box 0452, Department of Anatomy, The University of California, San Francisco CA 94143-0452. Confirmed speakers are listed below, and additional talks will be selected from the applicants. All applicants are encouraged to present posters of their research.

Topics:

Establishing asymmetry
Signaling pathways in pattern formation
Gastrulation and morphogenesis
Transcriptional control pathways in development
Neurogenesis and neural patterning
Signal transduction in neuronal development
Organogenesis
Homeostasis
growth and lifespan

Confirmed speakers:

Sharon Amacher	Kathryn Anderson	Konrad Basler
Amy Bejsovec	Graeme Davis	Chris Doe
Bruce Edgar	Scott Fraser	Ernst. Hafen
Mimi Halpern	Janet Heasman	Ira Herskowitz

Yishi Jin	Cynthia Kenyon	David Kingsley
Mark Krasnow	Rob Krumlauf	Mike Levine
Richard Mann	Gail Martin	Andy McMahon
Craig Mello	Barbara Meyer	Roel Nusse
Christiane Nusslein-Volhard		Norbert Perrimon
Jim Priess	Elizabeth Robertson	Arnon Rosenthal
Janet Rossant	Gary Ruvkun	Trudi Schupbach
Geraldine Seydoux	Bill Skarnes	Bill Smith
Allan Spradling	Didier Stainier	Claudio Stern
Cliff Tabin	Will Talbot	John Tamkun
Marc Tessier-Lavigne		Eric Wieschaus

International Congress on Differentiation and Cell Biology (ICDCB2000)のお知らせ

International Congress on Differentiation and Cell Biology (ICDCB2000) が今年の9月24～28日にオーストラリア・ゴールドコーストにて開催されます。この学会はInternational Society of Differentiation, Inc., International Congress on Cell Biology、Conference of the International Molecular Biology Network、Conference of the Australian and New Zealand Society for Cell and Developmental Biology, Inc.の協同で行われるもので、シンポジウムに細胞・発生生物の著名な演者を多数交えて、学会を開催することになっています。発表演題の抄録投稿の締めきりは本年6月1日になっています。

International Congress on Differentiation and Cell Biology 2000
“Cell and Developmental Biology - the Next Millennium”

24-28 September 2000

Gold Cost, Queensland, AUSTRALIA

Abstract closing date: June 1st, 2000

Combined with 7th International Congress on Cell Biology, 11th Conference of the International Society of Differentiation, 3rd Conference of the International Molecular Biology Network, and 19th Conference of the Australian New Zealand Society for Cell and Developmental Biology.

Keynote Speakers and Topics:

- Sydney Brenner, The Molecular Biosciences Institute, Berkeley, USA: "Paradigms in molecular and cell biology"
- Antony W. Burgess, Ludwig Institute for Cancer Research, Melbourne, AUSTRALIA: "The Role of the EGF receptor in neoplastic cell biology"
- Linda Buck, HHMI/Harvard Medical School, Boston, USA: "Olfactory and pheromone signalling"
- Pietro De Camilli, HHMI/Yale University School of Medicine, USA: "Molecules of vesicle formation"
- Scott Emr, University of California San Diego School of Medicine, La Jolla, USA: "Phospholipid control of membrane traffic"
- Peter Gruss, Max Planck Institute of Biophysical Chemistry, Goettingen, Germany: "Vertebrate development"
- John Gurdon, Wellcome CRC Institute, Cambridge, UK: "Cell signaling in vertebrate development"
- Brigid Hogan, HHMI/Vanderbilt Medical School, USA: "Branching morphogenesis"
- David A. Jans, Australian National University, Canberra, AUSTRALIA: "Regulation of nuclear protein import"
- Alan Hall, MRC, University College London, UK: "GTPase control of the cytoskeleton"
- Vishva Dixit, Genentech Inc., USA: "Cell machinery of apoptosis"
- Graham Warren, Yale University School of Medicine, USA: "Organelle origin and replication"
- Yosef Yarden, Weizmann Institute of Science, Rehovot, Israel: "Tyrosine kinases in signalling and development"

* For further conference and special airfare information and registration, please see the conference web site: <http://www.celldiff.unsw.edu.au>, or send your registration/enquires to ICDCB2000 Congress Secretariat (Fax: +613 9887 8773, e-mail: cell@conventionassociates.com.au)

* The conference organizer recommends participants to arrange the travel to Australia earlier due to the forthcoming Olympic Games in Sydney.

Convenor: Professor Keith Stanley, e-mail: k.stanley@cfi.unsw.edu.au

Co-convenor: Dr Peter French, e-mail: p.french@cfi.unsw.edu.au

Conference organiser e-mail: cell@conventionassociates.com.au

岡崎国立共同研究機構統合 バイオサイエンスセンター教授公募のお知らせ

本センターは、分子科学研究所、基礎生物学研究所及び生理学研究所が共同してバイオサイエンスの最先端の基礎的研究を展開することを目的とする本機構の共通研究施設で、上記いずれかの研究所と連携を密にしつつ研究を進めるものである。

本公募では、生物の発生・分化・再生のメカニズムを分子レベルで解明する研究者を求める。

募集：時系列生命現象研究領域 教授2名

(各教授は就任後、助手1名および非常勤研究員1名の採用が可能)

公募締切：平成12年6月30日（金）（必着）

提出書類：1. 履歴書（様式任意）

2. 業績目録（印刷中を含む）

3. 現在までの研究の概要 (1,500字程度)
4. 就任後の研究計画又は研究の抱負 (1,000字程度)
5. 推薦書 (ない場合は照会可能な方の所属・氏名・連絡先を2名まで)
6. 主要論文の別刷, プレプリント (10編以内, 各2部)

就任時期: 決定後, できる限り早期。

問合せ先: 基礎生物学研究所 教授 長濱嘉孝

電話: 0564-55-7550

送付先: 〒444-8585 愛知県岡崎市明大寺町字西郷中38番地

岡崎国立共同研究機構 総務部人事課気付 長濱嘉孝教授

電話: 0564-55-7122

※「統合バイオサイエンスセンター教授応募書類在中」と朱書きし, 簡易書留で送付すること。

詳細は<http://www.orion.ac.jp/DOC/indexj.html>

または<http://www.nibb.ac.jp/index.html>をご覧ください。

Postdoctoral associate position available

Cell biological and molecular biological studies of the role of the mammalian sperm glycine receptor/Cl⁻ channel in the acrosome reaction, a sperm exocytotic event essential to fertilization. Applicants should have strong training in biochemical and molecular biology techniques.

Start date May, June or July 2000.

Contact Dr. Stanley Meizel, Dept. of Cell Biology and Human Anatomy, University of California, Davis, California, 95616-8643.

e-mail smeizel@ucdavis.edu.

科学技術振興事業団平成12年度研究者募集のお知らせ

個人研究推進事業（さきがけ研究21）

募集対象：個人研究者

募集研究分野・採用数：

材料系、情報系、機械システム系、生命・生物系分野で計60名程度

研究期間：平成12年10月頃から3年間

研究費：3年間で3,000万～4,000万円程度

若手研究者研究推進事業

募集対象：37才以下もしくは博士号取得後10年以内の若手研究者

募集研究分野・採用数：情報化、高齢化、環境対応分野で計42名程度

研究期間：平成12年10月頃から3年間

研究費：3年間で7,000万～8,000万円程度

募集締切、問い合わせ先(両事業共通)

募集締切：平成12年4月28日（金）（必着）

問い合わせ先：科学技術振興事業団 個人研究推進室 内野または日江井

〒332-0012 埼玉県川口市本町4-1-8

t e l . 048-226-5641

E-Mail presto@jst.go.jp

URL <http://www.jst.go.jp/>

なお、個人研究推進事業と若手研究者研究推進事業には同時に応募できません

平成13年度特定国派遣研究者 (ナポリ臨海実験所派遣特別枠)の募集について

日本学術振興会では、国際学術交流の一環として、イタリアのナポリ臨海実験所への平成13年度派遣研究者の公募を行うことになりました。

なお、募集要項並びに申請書様式については、4月上旬に日本学術振興会のホームページ上に掲載し、申請書等の様式をダウンロードできるよう準備するとのことです。発生学会事務局にも募集要項がございますので、お問い合わせください。

(URLは<http://www.jsps.go.jp/j-announce/bilat/ex.htm>)

植物科学基金 若手研究者海外学会出席助成 (平成12年度 第1期募集分) 募集のお知らせ

海外渡航費補助のお知らせ

植物科学基金では植物科学振興のため、基金の運用の一環として若手研究者海外学会出席助成を行っています。植物科学分野の学会出席であれば、本人の所属団体などにかかわらず応募できます。

1. 援助の趣旨

本援助は植物科学基金運用の一環として行うもので、植物科学に関連して海外で開催される国際学会・国際シンポジウムに参加する若手研究者を対象として渡航費の補助を行い、もって若手研究者間の国際交流及び植物科学研究の発展を図るものとします。

2. 有資格者

大学院生、研究生、ポストドクトラルフェローなど常勤の職に就いていない若手研究者とします。

3. 本年度(第2期)の援助対象及び金額

平成12年7月1日から平成12年12月31日までに国外で開催される学会、国際

学会、国際シンポジウムでの発表を行うために必要な費用のうち、渡航に関する費用の一部を補助します。1件あたり10万円以下で総額100万円以内の予定です。

4. 申込手続き

所定の用紙を事務局に用意してあります。必要事項を記入し、植物科学基金事務局：(社)日本植物学会内(〒113-0033 文京区本郷2-27-2 東真ビル)宛お送りください。

5. 申込期限

平成12年4月30日まで。

6. 選考方法

植物科学基金運営委員会により選考・決定されます。現在の運営委員会委員は秋田重誠、今市涼子、柴岡弘郎(委員長)、東江昭夫、矢原徹一、山根久和、和田正三の7名です。

7. 選考結果の通知

申請者宛に通知します。

8. 補助金の交付

助成候補者に対し、交付申請書を提出していただいた後、出発の1ヶ月前までに指定口座に振り込みます。ただし、申請のあった学会出席について、科研費、財団助成金等の他の補助金から旅費を支出する場合には、本助成金を重複して受領することはできません。

9. お問い合わせ

本助成についてのお問い合わせは下記をお願いします。

(社)日本植物学会内 植物科学基金事務局

〒113-0033 文京区本郷2-27-2 東真ビル

電話 03-3814-5675

FAX 03-3814-5352

第12回(2000年度)加藤記念海外派遣助成募集のお知らせ

第12回加藤記念海外派遣助成募集要項

1. 助成対象者：平成12年4月1日から平成13年3月31日の期間に海外で開催されるバイオサイエンス分野の学会、シンポジウム等で研究発表を行う日本国内在住の研究者。
2. 申込資格：応募締切日に35才以下の方(医学系の大学卒業者は37才以下の方)。
3. 助成内容：所要経費の一部を援助する。
4. 助成金額：総額750万円。(1件10～30万円。開催地により異なる。)
5. 助成件数：30件程度(前期；20件程度、後期；10件程度)。
6. 応募方法：当財団所定の申請用紙に必要事項を記入の上、当財団に直接申し込む。
7. 応募締切：1前期；4／1～9／30の期間に発表される方は、
平成12年5月31日。
2後期；10／1～翌年3／31の期間に発表される方は、
平成12年8月31日。
8. 審査方法：当財団の選考委員による審査の上、評議員会議長および理事長の承認を得て決定。
9. 申請書の請求先：下記あて「はがき」または「ファクシミリ」にてご請求ください。
10. 助成を受けられた方はA41枚程度の報告書を提出してください。「財団年報」に掲載する場合があります(後日、用紙をお送りします)

連絡先：(財)加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

住所：〒194-8533 東京都町田市旭町3-6-6

電話：042-725-2576

FAX：042-722-8614

担当：松浦 智佳子

公益信託 成茂動物科学振興基金平成16年度研究助成募集 のお知らせ

1. 助成の対象

基礎的な動物科学の研究。

2. 助成の内容

上記研究に対し、助成金を交付する。助成金額：約300万円

1件に尽き100万円以下とする。

助成金は、備品、消耗品、謝礼、国内旅費などのほか、国外旅費にも使用することができる。

3. 応募の方法

所定の研究助成申請用紙に必要事項を記入して、下記事務局に直接申し込む。

申込〆切：平成12年7月19日(水)必着。

申請用紙は、返信用封筒(A4版)を同封の上、下記宛請求する。

公益信託 成茂動物科学振興基金事務局

〒100-8212 東京都千代田区永田町2-11-1

三菱信託銀行本店営業部

公益信託推進室 担当 小林

平成12年度東レ科学技術賞および 東レ科学技術研究助成募集のお知らせ

I. 東レ科学技術賞(概要)

1、候補者の対象………下記に該当するもの

- (1) 学術上の業績が顕著なもの
- (2) 学術上重要な発見をしたもの
- (3) 重要な発明をして、その効果が大きいもの
- (4) 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したものの

2、科学技術賞………2件前後。1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円

3、候補者推薦件数……1学協会から2件以内

4、推薦締切期日………平成12年9月10日(火)

発生生物学会事務局必着(財団締切りの1ヶ月前)

II. 東レ科学技術研究助成(概要)

1、候補者の対称………国内の研究機関において基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者

2、研究助成金………総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度。

3、候補者推薦件数……1学協会から2件以内

4、推薦締切期日………平成12年9月10日(火)発生生物学会事務局必着(財団締切りの1ヶ月前)

*各推薦書用紙は、ホームページからもダウンロードできます。

(平成12年7月1日以降から可)

URL : <http://www.toray.co.jp/kagaku.html>

財団法人ノバルティス科学振興財団平成12年度(2000年度)

第14回 研究集会助成募集のお知らせ

1. 助成対象研究集会

生物・生命科学およびそれに関連する化学の領域において、わが国で開催される研究集会に対し、運営経費の一部を助成する。研究集会はかなりの数の国外からの参加者を含む国際性豊かな集会でなければならない。ただし、参加者が1,000名を越すような大規模な研究集会、2国間の研究集会または国内の学会および機関の主催する集会は原則として助成の対象としない。また、平成12年9月以降に開催される研究集会であることが望ましい。

2. 助成金額

助成金は1件50万円とし、約10件の助成を行う。

3. 推薦件数

1推薦者から1件に限る。

4. 推薦書

発生生物学会事務局にございますので、お問い合わせください。

5. 推薦受付期間

平成12年(2000年)5月29日までに発生生物学会事務局必着(財団締切の1ヶ月前)。

6. 選考方法

候補集会の推薦を6月末にて締切った後、ただちに選考委員会において選考し、理事長、副理事長、評議委員会議長の合議により決定する。

7. 採否の通知

選考終了後、直ちに推薦者、被推薦者の双方に採否を通知する。

8. 助成金の交付

研究集会の開催時期の遅くとも1ヶ月前までに研究集会の申請者に送呈する。

9. 助成金の使途

会場使用料、外国人講演者の招聘費用、抄録集の印刷費など研究集会の開催に直接必要な経費に限る。飲食費などに使用してはならない。助成金は推薦書記載の通りに使用することを原則とする。万一使途を変更する場合には、あらかじめ当財団理事長の承認を求めること。

10. 成果の報告

研究集会の成果を集会開催後2ヶ月以内に当財団に報告するものとする。報告書作成方法等については、集会開催後に当財団事務局より連絡する。研究集会のプロシーディングを刊行する場合には、財団法人ノバルティス科学振興財団（英文の場合にはNovartis Foundation (Japan) for the Promotion of Science）から助成を受けた旨を明記すること。

お問い合わせ先

〒665-8666 宝塚市美幸町10-66

財団法人ノバルティス科学振興財団

電話：0797-74-2460

FAX：0797-74-2409

第17回（平成12年度）井上學術賞 受賞候補者推薦要項

財団法人 井上科学振興財団

1. 候補者の対象

自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた研究者。

ただし、年齢が平成12年9月20日現在で50歳未満の研究者に限ります。

2. 学術賞

本賞： 賞状及び金メダル 副賞： 200万円

授賞件数は5件以内とします。

（注）受賞者は原則として1件につき1人とします。特に複数であることを必要とするときは、それらの研究者の寄与が同等であることを示してください。ただし、この場合においても1件として取扱います。

3. 推薦件数

各推薦学会または各推薦者から、原則としてそれぞれ1件とします。

4. 締切期日

平成12年8月21日（月）発生生物学会事務局必着(財団締切りの1ヶ月前)

5. 選考

当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。

選考の結果は、平成12年12月中旬に推薦者に通知します。

6. 学術賞の贈呈

平成13年2月2日（金）の予定

7. 連絡先

財団法人 井上科学振興財団

〒150-0033東京都渋谷区猿楽町11番20号

電話：03-3477-2738 fax：03-3477-2747

第17回(平成12年度)井上研究奨励賞 受賞候補者推薦要項

財団法人 井上科学振興財団

1. 推薦の対象

平成9年4月1日～12年3月31日(平成9年度～11年度)の過去3年間に、理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した35歳未満(平成12年9月20日現在。ただし、医学、歯学、又は獣医学の学位取得者については37歳未満。)の研究者で、自然科学の基礎的研究において新しい領域を開拓する可能性のある優れた博士論文を提出した研究者。

2. 授賞件数及び研究奨励金

授賞予定件数は30件。

受賞者には、賞状及び1件あたり50万円の井上研究奨励金を贈呈します。

3. 推薦者

原則として、博士論文の作成を指導した研究者とします。

4. 提出手続

- (1) 推薦者は、所定の推薦書用紙に必要事項を記入し、候補者が博士の学位を取得した大学の学長に提出願います。
- (2) (1)により推薦書の提出を受けた学長は、当財団から学長に当てた推薦依頼書に示された推薦件数枠の範囲内で推薦書を取りまとめの上、学長名の文書を添えて、所定の提出書類とともに当財団へ一括して提出願います。

5. 提出書類

- (1) 推薦書本文 (4ページ。所定の書式による)。 1部
- (2) 同上 写し 2部
- (3) 博士論文の概要 2部
(形式自由。A4版で1～2ページ。冒頭に、論文題名と氏名を記入してください。)
(「推薦書」(4ページ)とは別です。ご注意ください。)
- (4) 博士論文 (審査終了後、返却します。) 2部

6. 締切期日

平成12年9月20日(水)

7. 選考

当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。

(選考結果は、12月中旬に推薦大学の学長に通知します。)

8. 研究奨励賞贈呈式

平成13年2月2日(金)午後 東京で開催の予定。

9. 推薦書提出先及び連絡先

財団法人 井上科学振興財団

〒150-0033東京都渋谷区猿楽町11番20号

電話：03-3477-2738 fax：03-3477-2747

第5回井上フェロー（平成13年度）の採用許可を 希望する研究者募集要項

財団法人 井上科学振興財団

趣旨：基礎科学分野の新しい開拓的發展を目指す45歳未満の優秀な研究者が自身の研究計画の推進に有力な協力が得られると考える若手研究者を自分で選定し、井上フェローとして採用して当該研究計画に参加させるための助成です。

応募資格：

- (1) 国公立大学の原則として大学院博士課程の教員、並びに大学共同利用機関に所属する常勤の研究者。
- (2) 45歳未満（締切日現在）であること。

採用予定数：10名

採択された研究者（研究計画担当者）が実施する研究計画に参加する井上フェローはそれぞれ1名とし、次の条件で採用します。

井上フェロー：

- (1) 対象 平成13年4月1日現在で35歳未満の博士号取得者。外国人も可。
- (2) 選定 採択研究者（研究計画担当者）がフェロー候補者を選定し、井上科学振興財団が井上フェローとして採用します。

但し、フェロー候補者の選定に当たっては、研究計画担当者の出身又は現在所属の「大学院選考」の出身者、在籍者又は所属教職員以外から選定していただきます。

- (3) 採用 フェローの採用開始は、平成13年4月1日から1年以内の間とし、採用期間は、採用開始後2年間です。

- (4) 支給経費 井上フェローには、採用期間中、次の額を支給します。

研究奨励金又は滞在費：月額35万円

ほかに往復国際航空運賃等を必要に応じて支給。

申請手続：当財団に申請用紙を請求の上、所定事項を記入して、申請者から当財団に提出してください。

提出書類：井上フェロー採用許可希望申請書……正本1部・写し2部（計3部）

受付期間：平成12年6月1日～9月20日（当日消印有効）

選考：当財団の選考委員会において選考し、理事会において決定します。

結果は平成12年12月下旬に申請者に通知します。

申請用紙：申請用紙の請求は、「井上フェロー申請用紙請求」の旨、及び受取人の郵便あて先を明記して、当財団に郵便（又はFAX）で9月10日までに行ってください。

資料請求・問い合わせ先：

財団法人 井上科学振興財団

〒150-0033東京都渋谷区猿楽町11番20号

電話：03-3477-2738 fax：03-3477-2747

第4回（平成12年度）久保亮吾記念賞受賞候補者推薦要項

- 1、趣 旨 久保亮吾博士の物理学における偉大な業績を記念し、わが国の学術振興に資することを目的として、故久保亮吾博士及び同夫人から寄せられた寄付金によって久保亮吾記念賞贈呈の事業を実施します。
- 2、授賞対象 日本の統計物理学・物性科学における波及効果の大きい基礎的研究で優れた業績をあげた45才未満(平成12年6月30日現在)の若手研究者。
- 3、賞の内容 授賞は毎年1件とし、受賞者には、賞状、メダル及び賞金100万円を贈呈します。
- 4、推薦件数 各推薦者からそれぞれ1件とします。
- 5、締切期日 平成12年5月30日(火) 発生物理学会事務局必着(財団締切りの1ヶ月前)
- 6、選 考 当財団の久保亮吾記念賞事業運営委員会において審査、選考します。
- 7、決 定 本年9月上旬の予定です。選考結果は直ちに関係者に通知します。
- 8、賞の贈呈 平成12年9月下旬又は10月上旬に東京都内で行う予定です。
- 9、連絡先 財団法人 井上科学振興財団
150-0033 東京都渋谷区猿楽町 11-20
TEL 03-3477-2738
FAX 03-3477-2747

東レ科学技術研究助成に関する審査結果

東レ科学振興会より第40回（平成11年度）東レ科学技術研究助成に発生物学会からの推薦の内、以下の方々の採用の報告がありました（敬称略）。

京都大学ウイルス研究所教授 上村 匡

国立遺伝学研究所教授 武田 洋幸

日産学術研究助成に関する審査結果

日産科学振興財団より第26回（平成11年度）日産学術研究助成に発生物学会からの推薦の内、以下の方々の採用の報告がありました（敬称略）。

国立遺伝学研究所教授 武田 洋幸

東北大学大学院理学研究科助教授 田村 宏治

会 員 異 動

<新入会員>

(氏名)	(所属)	(住所)	(①テーマ、②材料)
矢野総一郎	理化学研究所脳科学研 究推進部	〒351-0198 和光市広沢2-1	
磯貝恵理子	千葉県がんセンター生 化学研究部	〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2	①発生を制御する分子メカニズム ②細胞、マウス
佐藤 光男	協和発酵工業(株)東京研 究所	〒194-8533 町田市旭町3-6-6	①マウスの発生と染色体工学の応 用 ②マウス、E S細胞
桜井 敬之	東海大学総合医学研究 所分子医学医療研究セ ンター分子発生科学部 門	〒259-1193 伊勢原市望星台	①マウス初期胚発生機構 ②マウス、Mus musculus
川崎 一郎	国立遺伝学研究所生物 遺伝資源情報研究室	〒411-8540 三島市谷田1111	①生殖系列の発生の機構 ②線虫 C. elegans
古賀 正明	福岡大学理学部地球圏 科学科	〒814-0180 福岡市城南区七隈8-19-1	①頭尾軸形成機構 ②アフリカツメガエル
磯野 協一	千葉大学大学院医学研 究科	〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1	①転写制御因子 ②マウス
(株)杉山大介	東京大学医科学研究所癌 病態学研究部	〒108-8639 港区白金台4-6-1	①造血発生
(株)梶井瑞子	愛媛大学理工学研究科 環境科学専攻分子生態 学講座生物系発生学研 究室	〒790-8577 松山市文京町2-5	①キョク皮動物の初期発生 ②バフンウニ、イトマキヒトデ
(株)林 香織	九州大学大学院生物資 源環境科学研究科遺伝 子資源工学専攻	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1	②Xenopus
(株)水野智亮	名古屋大学大学院理学 研究科生命理学専攻	〒464-8602 名古屋市千種区不老町	①ショウジョウバエ非筋ミオシンII ②キイロショウジョウバエ
市川 明	国立医薬品食品衛生研 究所療品部	〒158-8501 世田谷区上用賀1-18-1	①再生医学 ②ヒト、マウス、ラット
豊島 邦昭	九州歯科大学口腔解剖 学第二講座	〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1	①味蕾の発生、分化、再生 ②カエル、ラット、ウサギ
原田 英光	九州大学口腔解剖学第 二講座	〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1	①歯の発生 ②マウス、ラット
豊野 孝	九州歯科大学口腔解剖 学第二講座	〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1	①味覚情報伝達 ②ラット
澤 進一郎	東京都立大学大学院理	〒192-0397	①植物分子発生学

	学研究科生物科学専攻	八王子市南大沢1-1	②シロイヌナズナ <i>Arabidopsis thaliana</i>
豊田 雅士	(株)三菱化学生命科学研究 所	〒194-8511 町田市南大谷11	①マウス形態形成 ②マウス、培養細胞
笹村 剛司	国立遺伝学研究所掘田 研究室	〒411-8540 三島市谷田1111	①神経発生 ②キイロショウジョウバエ
川上 浩一	東京大学医科学研究所	〒108-8639 港区白金台4-6-1	①パターン形成、インサーショ ナルミュータジェネシス ②ゼブラフィッシュ
関本 朝久	熊本大学医学部遺伝発 生医学研究施設発生遺 伝部門	〒862-0976 熊本市九品寺4-24-1	①発生遺伝学
梶原 一人	理化学研究所脳科学総 合研究センター神経再 生研究チーム	〒351-0198 和光市広沢2-1	①神経発生・神経幹細胞 ②マウス胚、 イモリ (<i>Cyrops pyrrhogaster</i>)
富田 江一	京都大学ウイルス研究 所	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町54	①神経発生 ②マウス
大城 朝一	東北大学加齢医学研究 所	〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1	①神経の初期発生 ②キイロショウジョウバエ
上田 貴文	国立西埼玉中央病院	〒359-1151 所沢市若狭2-1671	①細胞周期の制御 ②培養細胞等
小林 大介	岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所	〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38	①性分化・発生、生殖腺 ②メダカ (<i>Oryzias latipes</i>)
田中 実	岡崎国立共同研究機構 基礎生物学研究所生殖 部門	〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38	①生殖腺形成 ②メダカ
(学)森由紀子	東京都立大学大学院理 学研究科生物科学専攻	〒192-0397 八王子市南大沢1-1	② <i>Arabidopsis thaliana</i>
(学)武田 忍	九州歯科大学口腔解剖 学第二講座	〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴2-6-1	①味蕾の発生と再生 ②ラット、ウサギ等の舌
(学)坂口晃司	熊本大学大学院自然科 学研究科	〒860-8555 熊本市黒髪2-39-1	①初期発生における中胚葉組織 の形成と分化 ②アカハライモリ (<i>Cyrops pyrrhogaster</i>)
(学)相原 仁	東京工業大学大学院生 命理工学研究科生命情 報専攻	〒226-8501 横浜市緑区長津田町4259	①胚発生過程におけるクロマチ ン構造の制御機構 ②アフリカツメガエル
(学)菅原文昭	岡山大学理学部生物学	〒700-8530	①脊椎動物の進化

	科	岡山市津島中3-1-1	②カワヤツメ <i>Lanpetra Japonica</i>
(学)信定福明	岡山大学理学部生物学	〒700-8530	①無顎類から顎口類での口及び 口周辺の進化
	科	岡山市津島中3-1-1	②ニワトリ、アフリカツメガエル、ゼブラフィッシュ、ヤツ メウナギ
(学)笹岡由美子	静岡大学大学院理工学 研究科生物地球環境科学専攻	〒422-8529 静岡市大谷836	①始原生殖細胞のテラトーマ形成機構
(学)綿貫公美子	東京都立大学大学院理学研究科生物科学専攻	〒192-0397 八王子市南大沢1-1	②マウス
(学)松田佳昌	東京都立大学大学院理学研究科生物科学専攻	〒192-0397 八王子市南大沢1-1	①ニワトリ消化管の形態形成に関する解析
(学)池上陽子	奈良女子大学大学院人間文化研究科生物科学専攻	〒630-8506 奈良市北魚屋東町	①ニワトリ消化管における形態形成機構の解析
(学)大島佑介	京都大学再生医科学研究所生体分子設計分野	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53	①成体イモリの網膜再生
(学)三宅顯三	東海大学海洋学部水産学科水産資源開発課程中辻研究室	〒424-8610 清水市折戸3-20-1	②アカハライモリ
(学)後藤 暁	横浜市立大学総合理学研究科システム機能科学専攻	〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2	①血管新生と制御
(学)宮崎裕司	大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻	〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 共通教育自然科学棟生物	②マウス、ニワトリ
(学)鈴木亜矢	信州大学工学系研究科地球生物圏科学	〒390-8621 松本市旭3-1-1	①E S細胞の培養
(学)明知美寿穂	北里大学理学部生物科学学科生物情報科学	〒228-8555 相模原市北里1-15-1	②シロウオ
(学)石野智子	東京大学大学院薬学系研究科発生細胞化学教室	〒113-0033 文京区本郷7-3-1	①分子発生学、分子生物学
(学)岩波将輝	国立遺伝学研究所発生遺伝研究部門	〒411-8540 三島市谷田1111	②マウス
(学)西岡武史	徳島大学総合科学部自然システム学科生命科学大講座	〒770-8502 徳島市南常三島町1-1	①器官形成
(学)川上弥生	岡山大学理学部生物学	〒700-8530	②マウス
			①性分化、形態形成
			②メダカ
			①MAPキナーゼカスケード
			②マウス
			①器官再生
			②アフリカツメガエル
			①神経発生・神経回路網形成
			②ショウジョウバエ
			①皮膚模様形成の発生的解析
			②ゼブラフィッシュ
			①頭腔の発生と進化

	科進化発生研究室	岡山市津島中3-1-1	②ニホンヤモリ、ニワトリ
(学)上野秀一	九州大学大学院理学研究科生物科学専攻発生生物	〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1	①初期発生 ②アフリカツメガエル
(学)小谷友也	北海道大学大学院理学研究科生物科学専攻	〒060-0810 札幌市北区北10条西8丁目	①生殖細胞 ②アカガエル、メダカ
(学)長瀬 敬	東京大学大学院医学系研究科外科学専攻	〒113-0033 文京区本郷7-3-1	①頭蓋顎顔面の発生 ②ラット、マウス
(学)三好 理	東京大学大学院総合文化研究科生命環境科学系浅島研究室	〒153-8902 目黒区駒場3-8-1 15号館314	①アクチビン受容体の局在 ②アフリカツメガエル
(学)斎藤由美	姫路工業大学理学部生命科学科細胞制御学Ⅰ講座	〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町光都3-2-1	①プラナリアの幹細胞システム ②プラナリア
(学)田所優子	大阪大学微生物病研究所感染動物実験施設動物実験学部門	〒565-0871 吹田市山田丘3-1	①生殖幹細胞の培養 ②未分化精原細胞
(学)右衛門佐知子	奈良女子大学大学院人間文化研究科生物科学専攻個体構造学分野M1	〒630-8506 奈良市北魚屋西町	①ニワトリ胚眼胞背腹軸形成 ②ニワトリ
(学)畠山 淳	京都大学ウイルス研究所増殖制御学分野	〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53	①神経発生・ボディープラン ②マウス
(学)中山晶絵	京都大学大学院理学研究科動物学教室分子発生生物学研究室	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	①ホヤ類幼生の変態 ②カタユウレイホヤ Ciona intestinalis
(学)福永陽二	福山大学工学研究科生命工学専攻	〒729-0292 福山市東村町字三蔵985-1	①HSP90遺伝子の発現制御領域の解析 ②線虫 Caenorhabditis elegans
(学)佐々木加代子	お茶の水女子大学人間文化研究科千葉研究室	〒112-8610 文京区大塚2-1-1	①ヒトデ卵成熟後のアポトーシス ②イトマキヒトデ (Asterina Pectinifera)
(学)鼠尾まい子	お茶の水女子大学人間文化研究科ライフサイエンス専攻	〒112-8610 文京区大塚2-1-1	①イトマキヒトデ卵発生過程におけるユビキチンの可視化 ②イトマキヒトデ (Asterina Pectinifera)

<会員資格変更>

学生→正会員

小池 亨	817 Hickman Rd., Apt.A-12, Augusta, GA 30904, U.S.A
川崎 能彦	国立遺伝学研究所脳機能研究部門 〒411-8540 三島市谷田1111
笹土 隆雄	Abt. fuer Entwicklungsbiologie, Institut fuer Biologie1, Albert Ludwigs Unibersitaet Freiburg Hauptstr.1, D-79104 Freiburg, Germany

国内→海外

荒木 功人	Dr.Michael Brand's Lab., Dept.Neurobiol.< Univ.Heidelberg Im Neuenheimer Feld 364, D-69120 Heidelberg, Germany
小池 亨	817 Hickman Rd., Apt.A-12, Augusta, GA 30904, U.S.A
石井 泰雄	Division of Genetics, Queen's Med.Ctr., Univ.of Nottingham Nottingham NG7 2Uh, U.K.
笹土 隆雄	Abt. fuer Entwicklungsbiologie, Institut fuer Biologie1, Albert Ludwigs Unibersitaet Freiburg Hauptstr.1, D-79104 Freiburg, Germany

海外→国内

田村 宏治	東北大学大学院理学研究科生物学教室 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻青葉
古野 伸明	九州大学大学院理学研究科生物科学専攻情報生物学 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1
米井小百合	東北大学大学院理学研究科生物学教室 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻青葉

<住所変更>

伊藤 一男	大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 〒560-0043 豊中市待兼山町1-16
中西 康夫	大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 〒560-0043 豊中市待兼山町1-16
山本 大輔	早稲田大学人間科学部遺伝学研究室 〒359-1192 所沢市三ヶ島2-579-15
前田ミネ子	大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 〒560-0043 豊中市待兼山町1-16
久保田幸彦	大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 〒560-0043 豊中市待兼山町1-16
平田 昌	大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 〒560-0043 豊中市待兼山町1-16
大崎加奈枝	国立精神・神経センター神経研究所診断研究部 〒187-8502 小平市小川東町4-1-1
尾池 雄一	熊本大学医学部遺伝発生医学研究施設分化制御部門 〒860-0811 熊本市本荘2-2-1
難波 大輔	大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 〒560-0043 豊中市待兼山町1-16
森川 和憲	大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻 〒560-0043 豊中市待兼山町1-16
宮田 卓樹	理化学研究所脳科学総合研究センター細胞培養 〒351-0198 和光市広沢2-1

永井 健治 理学研究所脳科学総合研究センター細胞機能探索技術開発チーム

〒351-0198 和光市広沢2-1

原 健二 東京学芸大学教育学部生物学科

〒184-8501 小金井市貫井北町4-1-1

<退会>

大 野 久良夫	山 口 武 雄	土 門 正 治	島 田 和 典	泉 進
細 谷 昌 樹	日下部 真 一	豊 原 治 彦	市 原 昭	井 上 佳 子
立 井 一 明	白 井 章 雄	大 段 正 司	田 中 公 子	藤 村 美由紀
DARRAS Sebastien	山 崎 由起子	北 出 幸 広	岸 将 史	横 山 成 俊
稲 津 裕 司	櫻 井 通 陽	川 崎 正 貴	伊 藤 今日子	室 谷 進
川 上 泉	水 野 三木朗	山 口 隆 男	澤 田 佳一郎	網 代 廣 三
堀 麻 希	竹林-鈴木公子	阿 部 幸一郎	大 高 亮 彦	岩 崎 隆 宏
斎 藤 友 昭	上 田 こずえ	広 瀬 大 也		

〔賛助会員〕

生命誌研究館

〒569 高槻市紫町1-1
-1125 TEL 0726-81-9750

先端テクノロジーをサポートする日京テクノス(株)

〒113 文京区本郷2-17-8鈴木ビル
-0033 TEL 03-3814-2066

三菱化学生命科学研究所

〒194 町田市南大谷11号
-8511 TEL 0427-24-6226

(有)共進理工“細胞分別”ナイロンメッシュ

〒113 文京区本郷5-13-1ドエル本郷205
-0033 TEL 03-3813-1073

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会
会長 竹市雅俊

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は、発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発生学者を混じえて約1,300名を結集しております。発生学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますようお願い申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物(会員名簿を含む)が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発生生物学会事務局(井出宏之)

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院理学研究科生物学教室内

TEL:022-217-3489 FAX:022-217-3489

e-mail:jsdb@bcasj.or.jp

-----切-----り-----取-----り-----線-----

日本発生生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(_____ 口 _____ 円)

住 所

会 社 名

㊞

担当者名
電話番号

広告掲載のお願い

日本発生物学会は理学、医学、薬学、農学をはじめ分子生物学、細胞生物学、遺伝学など、さまざまな生物学分野で発生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり、国内外に約1,300人の会員を持っております。

英文学術雑誌 Development, Growth and Differentiation は、日本発生物学会の機関誌で年6回発行し、国内に約1,200部、国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下、本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等、是非ご協力頂きますようお願い致します。

広 告 料			
DGD 本誌	1 頁	年 6 回	150,000円
	半 頁	〃	78,000円
インフォメーション	1 頁	年 3 回	90,000円
	半 頁	〃	45,000円

尚、サーキュラー用の版下作製代は実費をいただきます。裏表紙は1頁10,000円高となります。

申込先：日本発生物学会事務局（井出宏之）

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院理学研究科生物学教室内

TEL:022-217-3489 FAX:022-217-3489

e-mail: jsdb@bcasj.or.jp

-----切 り 取 り 線-----

広告申し込み書

年 月 日

日本発生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

☐ DGD 本誌	1 頁
☐ 〃	半 頁
☐ サーキュラー	1 頁
☐ 〃	半 頁
住 所	
会 社 名	
担当者名	
電話番号	

XENOPUS
Oocyte

ホームページ開設

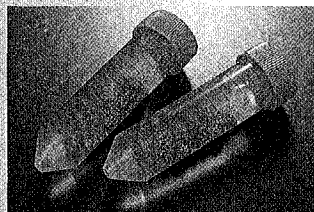
XENOPUS

- 患まれた自然環境の下で育った良質のアフリカツメガエル。

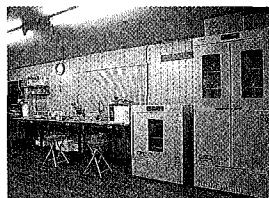


Oocyte

- 飼育管理に時間をとれない方や、実験を効率よく進めたい方にはOocyteを直送致します。



<http://www.copacetic.co.jp>



COPACETIC

株式会社コパセティック

〒036-1511 青森県中津軽郡相馬村大字坂市沢113-3

TEL 0172(84)3509 FAX (84)3510

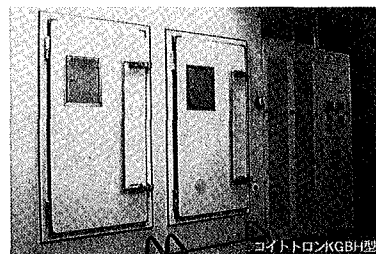
フリーダイヤル：0120-084896

フリーダイヤル ゼノパスはクロロン

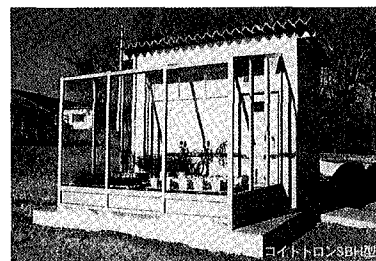
KOLTO
安全と快適を求めて

バイオ関連の試験・研究を バックアップ

小糸工業のバイオハザード対応グロースキャビネットは、周囲環境の影響を受けずに、圧力コントロールシステムで実験室内を陰圧に保持します。また、コンパクトで高性能なフィルターユニットとの組み合わせで、実験対象物への空気流による外界からの悪影響を遮断、簡単操作をプラスして、高精度な温・湿度を再現します。



コイトロンKGBH型



コイトロンSBH型

バイオハザード対応

グロースキャビネット

コイトロン

SBH/KGBH シリーズ

小糸工業株式会社

東京本部 〒108-8723 東京都港区高輪 3丁目5番23号(日生高輪台ビル) ☎03(3443)9846 FAX 03(3443)6570
札幌011(722)5211 東北022(225)7501 大阪06(6263)6371 九州092(431)0838 筑波0298(51)2311 沖縄098(861)1805
URL <http://www.mmjp.or.jp/kolto-environ> メールアドレス kolto-environ@tokyo.email.ne.jp

カール ツァイス パーソナルコンフォーカルシステム

LSM 5 PASCAL

Personal LASER Scanning confocal

New!

新設計の小型軽量化スキャンング
モジュール

New!

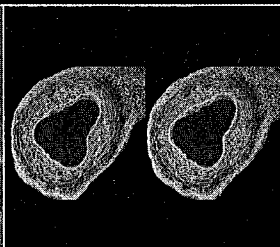
新開発レーザーコントロール・
モジュール

New!

ユーザが簡単に交換可能な
ビームスプリッター、
蛍光フィルター類



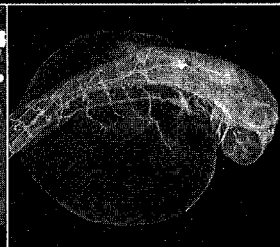
*C. elegans with embryos, autofluorescence + DIC,
(single frame out of time series). (Sample courtesy
of Dr. Afag, MBL Woods Hole)*



*Fetal small intestine, double fluorescence, stereo
projection (Dr. Hashimoto, Jikei University,
Tokyo)*



*Drosophila brain, neural circuit indicated with
GFP (Dr. Ito, NI of Basic Biology Lab, Okazaki)*



*Zebrafish embryo, neurons (green), NCAM (red)
(Dr. Marx, Dr. Bastmeyer, Uni Konstanz)*

- システムはフルオートでコントロール及び設定可能
- 2048 x 2048/12bit/各チャネルの高画質
- DSP 技術を用いた多彩なスキャンモード
- マルチトラッキングスキャンにより、多重蛍光標本の蛍光波長のかぶりを解消
- 多彩な 2D、3D 解析機能と、画像管理に便利なイメージデータベース
- タイムコースソフトウェアによる多彩な時間解析機能、外部トリガ機能

このほかにも数多くの新開発・新設計・すぐれた技術が搭載されております。

輸入／販売元
カール ツァイス 株式会社
顕微鏡部

〒160-0003 東京都新宿区本塩町 22 番地
Tel 03-3355-0332 Fax 03-3358-7554
URL <http://www.zeiss.co.jp>
営業所：大阪／名古屋／福岡／仙台

